

湊江小学校 外国語活動・外国語科研究通信

第1号
令和5年5月

今年度第1回目となる外国語活動・外国語科の研究授業を宮澤 修平教諭が行いました。協議会では、新出表現に自然に出会う仕掛けや中間指導の取り上げ方について活発な意見交流を行いました。指導・講評では、文部科学省初等中等教育局視学官 直山 木綿子先生よりご指導いただき、研究を深めました。

研究主題

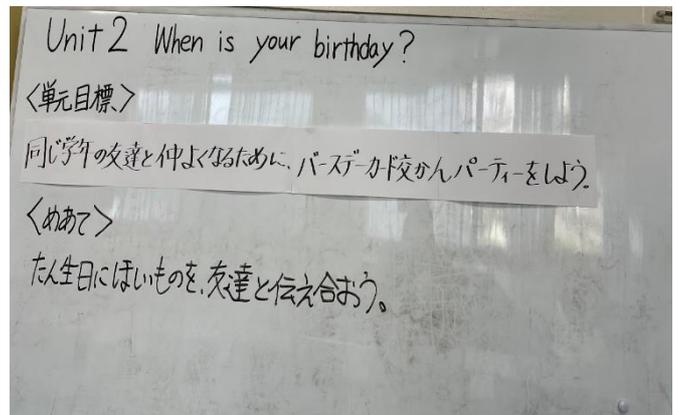
関わり合い、学びを広げ、深める児童の育成

～ 思いを豊かに表現できる授業づくりを通して～

授業者:5年2組 担任 宮澤 修平教諭

単元名:Unit 2 When is your birthday?

指導講評:文部科学省初等中等教育局視学官 直山 木綿子先生より



〈研究経過報告〉

単元目標であるバースデーカードを送りあう活動を行う。お互いの考えや気持ちを尋ねたり答えたりして伝え合うために、子供たちの思いが広げられるように以下の3つの重点的に行った。

① 言語活動の充実

児童が友達とのやり取りの中で友達の欲しいものをバースデーカードに描く活動を設定することで、互いにより詳しく伝え合うために、既習表現や語句を想起し、使用すると考えられる。What do you want for your birthday? やI want ～.の表現だけでなく、欲しいものを詳しく尋ねるWhat color do you like?といった表現に気付かせ、言語活動の充実につなげ、児童の表現したいことを引き出していく。

② 単元目標の提示

単元の始めに単元目標を提示し、どんな力を付けたいか児童が見通しをもてるようにした。単元の最後に、「作ったバースデーカードを交換し、学年全体で交流をする」ことを伝えることで児童は、バースデーカードを作ることを楽しみにし、そのためには、友達に英語で誕生日を聞いたり、欲しいものを尋ねたりできるようになりたいと考えられるようにした。

③ 表現を繰り返し使うための工夫

単元の前半では、新出の表現に慣れ親しめるようにゲームや歌を活用した。映像を見る際にも、新出の表現を意識的に教師が使うようにし、児童の耳に残るようにした。中盤のWhat do you want for your birthday?の表現との出会いを大切に、児童との英語のやり取りから、自然に使う機会を与えるようにする。また、後半にかけては、インタビュー活動を多く行い、使う機会を増やすようにする。

特に、単元目標に即したLesson8で行う、「バースデーカード持ち主探し」の活動において、学習してきたことを生かせるように児童の姿を想像しながら授業を展開する。

〈授業者自評〉

今年度は、新しく異動してきた先生が多いため、湊江小学校で今までやってきたことを今回の授業で体現することが役割だと思って臨んだ。アドバイザーの方と「どのタイミングで言ってもらうか」ということや「話してもらう内容」などを打ち合わせすべきだった。難しい表現との出会わせ方を見せる授業をしていきかけた。

〈研究協議会〉

研究の視点について

視点1 What do you want for your birthday?の新出表現との出会わせ方は適切であったか。

- ・自然な会話の流れから子供の「聞いてみたい。」「言ってみよう。」が引き出されていて良かった。
- ・ほかの先生の Who am I クイズを行い、そこから欲しいものに対して詳しく質問をさせたことで本時のねらいに沿うようなものが出ていて良かった。
- ・今回の目的の表現を教師が何度も繰り返すことで児童が新出表現を使えるような工夫がされていた。
- 新出表現を黒板に書いておく良かったのではないかと。イラストなどがあると会話が広がったのではないかと。
→宮澤先生
「繰り返しの中で使いたいから使う。」ということを考えてほしいと考えている。達成させたいことを掲示していいのかとも迷った。中間指導で取り上げたペアを見て「次使おう。」と思うだけでもいいのかなと思っていた。

○やり取りの場面で質問の仕方が分からなかったり、表現や語句が間違っていたりする児童がいた。

⇒直山先生

質問の仕方など、確実に指導しなければならないことで心配なことがある時は教師から言う。「何て言うのかな？何回だったら覚えられそう？」と言い、3回練習させる。また、中間指導でも2回くらい練習する。確実に指導しなければいけないことは指導しきることが大切。

視点2 中間指導は、児童がさらに意欲的にやり取りを行う上で効果的な内容であったか。

- ・「歴史の本」の言い方が分からなかった児童に他の友達が「タイムトラベリングはどうか」と考えを言っている子供がいて、そこに学習の積み重ねを感じた。
- ・本時で出したいことを中間指導で見つけて、児童のやり取りを見せたことにより2・3回目のやり取りが良くなっていた。
- ・どこまで子供に寄り添えばよいか難しかった。

【その他】

- やり取りの時間が余っていたのではないかと。

→宮澤先生

やり取りの余った時間に何か他に時間を有効活用できないかと考えている児童がいる。難しい子は何とか言おうと頑張ろうとしている子もいるので、ちょうど良い時間設定だったと思う。

(質問) 本時の振り返りで何と書いていたらねらいを達成したことになるのか。

⇒次回どうしたいかなど次時への意欲が書かれていると良い。次は Why? や次は友達の好きな色を聞きたいなどと具体的に書いていると良い。

(質問) 最終活動はどのようになるのか。

⇒クラス内ではやり取りを何回もしているのだから分かってしまうので、1組と合同で行う予定をしている。

質問をしてカードに誕生日と欲しいものを絵で描く。それを持ち寄り、1組は2組の物を2組は1組の物をもってランダムに質問し、持ち主を当てるという活動になる。

〈指導・講評：文部科学省初等中等教育局視学官 直山 木綿子先生〉

児童を大切に

- ・子供は先生が指導したように動く。
- ・今日のように、「別のペアとやりたい。」と子供が素直に気持ちを言える学級経営が大切。
- ・Who am I クイズの正解(校内の先生)がわかった時に、担任が「ほかに聞きたいことはある？」という質問に対して、児童が“What food do you want?”と、クイズで話していた内容とは関係のない質問が出た。しかし、担任は“in the car?”と児童に質問を返し、車が欲しいと話したクイズの内容に関連付け、児童の発言を意味のあるものにした。

本時のねらいのタイミング

- ・Who am I クイズを出した後に「何か質問がある？」と問いかけ、本時のねらいとすることができた。そこがあったからこそ本時の内容に入っていきやすかった。自然な流れで、ねらいとしている指導に入ることができていた。
- ・先生が、クイズで出てきた先生と対話を続けたことで、児童がコミュニケーションの取り方が分かった。たくさん関わってコミュニケーションを取らせるということが分かったし、詳しく言わせるという本時のねらいも分かった。
- ・本時のねらいを出すタイミングが少し早かったように思う。もう少しやり取りをさせてからでも良かった。何回もやり取りをさせてから、最後に本時のねらいを出すやり方もある。

中間指導では

- ・既習表現を使わせたい、もしくは出てくるかもしれないと思った場合には事前に予想して用意しておくことが必要。子供は言葉ではなく、その時に使用したイラストや場面など、視覚で覚えている。
- ・児童は言いたいことにこだわりがある。児童の背景を理解し、接していくことが必要。
- ・言いたいことは、汎用性がある言葉に言い換えられるようにしていきたい。今回では「ひっかけ問題の本」を「ひっかけとは」と聞き、かみ砕いて“Quiz book”と言い換えることでこれから先も使えるものに言い換えていた。

☆児童をどんな姿に成長させたいのか、教師は最終ゴールをもち指導していくことが大事!